

I 人口・世帯数の概要

1 概要

令和5年10月1日現在の住民基本台帳に基づく浜松市の総人口は789,822人で、前年に比べ3,793人(0.48%)減少している。世帯数は354,797世帯で、前年に比べ3,460世帯(0.98%)増加している。

性別で見ると、男性が393,802人(構成比49.9%)で、前年に比べ1,674人(0.42%)減少している。女性は396,020人(同50.1%)で、前年に比べ2,119人(0.53%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は99.4で、前年に比べ0.1ポイント増加している。

1世帯当たりの平均人員は2.23人で、前年と比べ0.03人減少している。

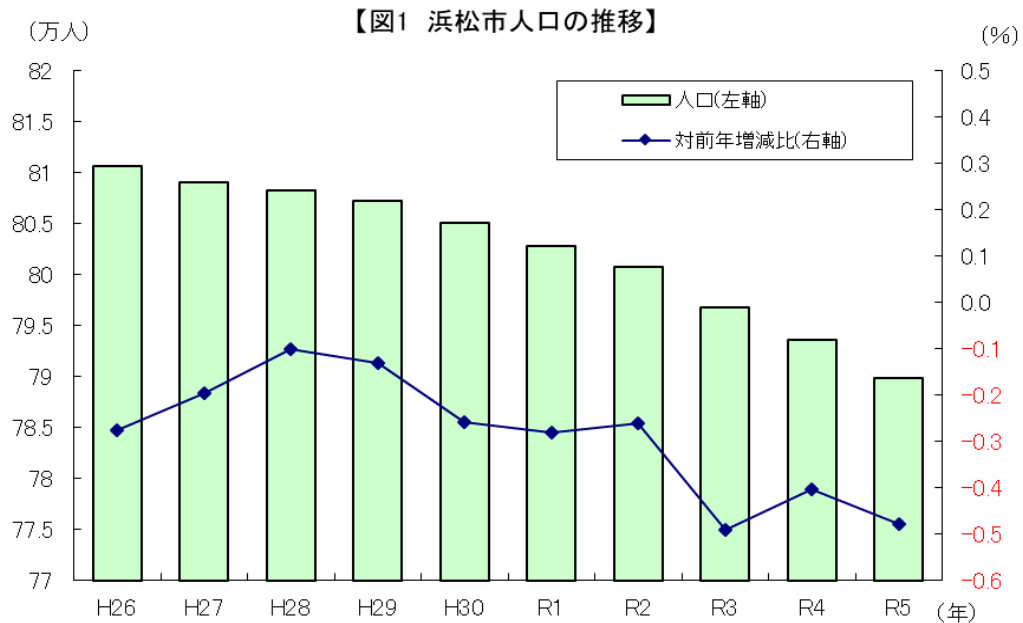


表1 浜松市人口・世帯数の推移

年	総		人		口	日 本	
	総 数	前年比%	男	女	世帯数	総 数	前年比%
平成 26年	810,642	△ 0.28	403,298	407,344	324,478	789,670	△ 0.22
27	809,065	△ 0.19	402,309	406,756	327,467	788,190	△ 0.19
28	808,249	△ 0.10	402,184	406,065	330,765	786,831	△ 0.17
29	807,199	△ 0.13	401,711	405,488	333,930	784,658	△ 0.28
30	805,110	△ 0.26	400,835	404,275	337,238	781,147	△ 0.45
令和 元年	802,856	△ 0.28	399,971	402,885	340,896	777,581	△ 0.46
2	800,760	△ 0.26	399,008	401,752	344,732	775,373	△ 0.28
3	796,829	△ 0.49	396,947	399,882	347,652	771,605	△ 0.49
4	793,615	△ 0.40	395,476	398,139	351,337	767,235	△ 0.57
5	789,822	△ 0.48	393,802	396,020	354,797	761,704	△ 0.72

表2 浜松市人口・世帯数等

区 分	令 和 4 年 10 月 1 日						総 数	前年比%
	総 数	男	女	性比	世帯数	1世帯当たり平均人員		
総 人 口	793,615	395,476	398,139	99.3	351,337	2.26	789,822	△ 0.48
日本人住民	767,235	382,387	384,848	99.4	338,333	2.27	761,704	△ 0.72
外国人住民	26,380	13,089	13,291	98.5	13,004	2.03	28,118	6.59

注) 令和5年12月に公表された「全国都道府県市区町村別面積調」により、浜松市の面積が変更になりました。

2 日本人住民数と外国人住民数

令和5年10月1日現在の日本人住民数は761,704人で、前年に比べ5,531人(0.72%)減少している。世帯数は340,443世帯で、2,110世帯(0.62%)増加している。

性別でみると、男性が379,713人(構成比49.9%)で、前年に比べ2,674人(0.70%)減少している。女性は381,991人(同50.1%)で、前年に比べ2,857人(0.74%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は99.4で、前年と同様であった。

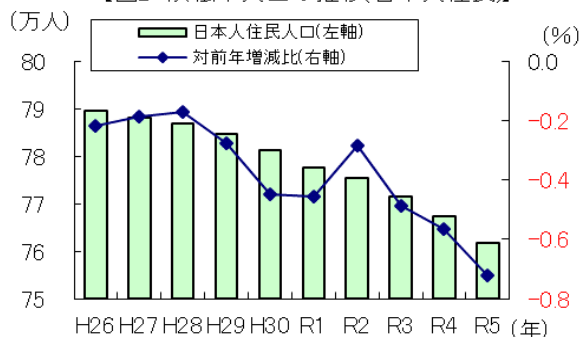
1世帯当たりの平均人員は2.24人で、前年に比べ0.03人減少している。

令和5年10月1日現在の外国人住民数は28,118人で、前年に比べ1,738人(6.59%)増加している。世帯数も14,354世帯で、前年に比べ1,350世帯(10.38%)増加している。

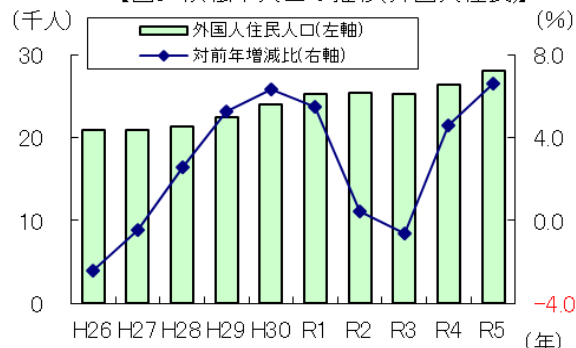
性別でみると、男性が14,089人(構成比50.1%)で、前年に比べ1,000人(7.64%)増加、女性は14,029人(同49.9%)で、前年に比べ738人(5.55%)増加している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は100.4で、前年に比べ1.9ポイント増加している。

1世帯当たりの平均人員は1.96人で、前年に比べ0.07人減少している。

【図2 浜松市人口の推移(日本人住民)】



【図3 浜松市人口の推移(外国人住民)】



人 住 民			外 国 人		人 住 民		
男	女	世帯数	総 数	前年比%	男	女	世帯数
393,052	396,618	315,192	20,972	△ 2.40	10,246	10,726	9,286
392,182	396,008	318,343	20,875	△ 0.46	10,127	10,748	9,124
391,796	395,035	321,240	21,418	2.60	10,388	11,030	9,525
390,767	393,891	323,664	22,541	5.24	10,944	11,597	10,266
389,077	392,070	326,104	23,963	6.31	11,758	12,205	11,134
387,419	390,162	328,710	25,275	5.48	12,552	12,723	12,186
386,464	388,909	332,478	25,387	0.44	12,544	12,843	12,254
384,535	387,070	335,547	25,224	△ 0.64	12,412	12,812	12,105
382,387	384,848	338,333	26,380	4.58	13,089	13,291	13,004
379,713	381,991	340,443	28,118	6.59	14,089	14,029	14,354

令 和 5 年 10 月 1 日									
男	前年比%	女	前年比%	性比	世帯数	前年比%	1世帯当たり平均人員	面積km ²	人口密度
393,802	△ 0.42	396,020	△ 0.53	99.4	354,797	0.98	2.23	1,558.11	507
379,713	△ 0.70	381,991	△ 0.74	99.4	340,443	0.62	2.24	-	-
14,089	7.64	14,029	5.55	100.4	14,354	10.38	1.96	-	-

3 行政区別人口

行政区別に人口・世帯数をみると、人口・世帯数ともに最も多いのは中区で、234,943人(構成比29.75%)、115,783世帯(同32.63%)である。また、人口・世帯数ともに最も少ないのは天竜区で、25,681人(同3.25%)、11,926世帯(同3.36%)である。

人口密度も同様に、最も高いのは中区の5,299人/km²、最も低いのは天竜区の27人/km²である。

性比(女性を100とした場合の男性の割合)は、南区が102.5で最も高く、続く東区も100.4で、男性の割合が高い。性比が最も低いのは、天竜区の95.2である。

【図4 行政区別人口・世帯数(構成比)】

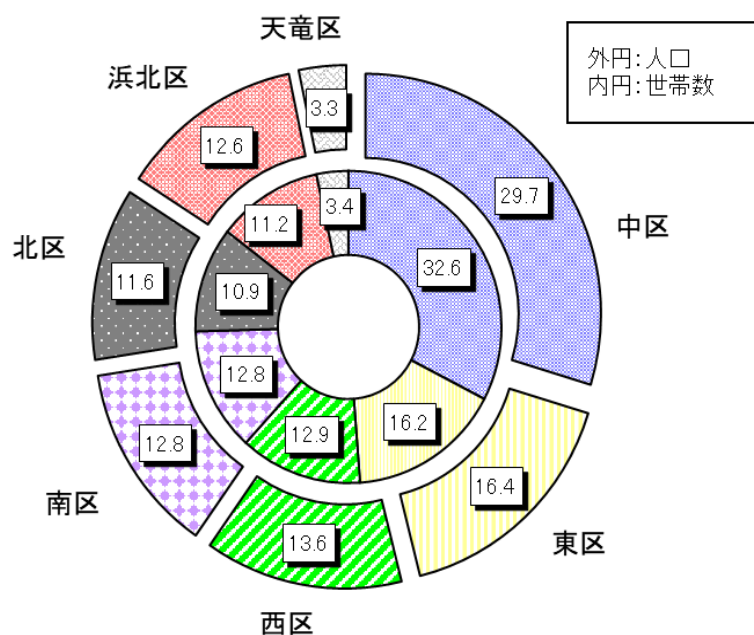


表3 区別の人口・世帯数等

区別	令和4年10月1日		令和5年10月1日										
	総数	世帯数	総数	前年比%	男	女	性比	世帯数	前年比%	1世帯当たり平均人員	人口構成比	面積km ²	人口密度
中区	235,712	114,681	234,943	△ 0.33	116,565	118,378	98.5	115,783	0.96	2.03	29.7	44.34	5,299
東区	129,860	56,744	129,244	△ 0.47	64,764	64,480	100.4	57,339	1.05	2.25	16.4	46.29	2,792
西区	108,117	45,407	107,328	△ 0.73	53,346	53,982	98.8	45,786	0.83	2.34	13.6	114.71	936
南区	101,640	45,040	101,199	△ 0.43	51,213	49,986	102.5	45,572	1.18	2.22	12.8	46.89	2,158
北区	92,270	38,427	91,715	△ 0.60	45,596	46,119	98.9	38,750	0.84	2.37	11.6	295.54	310
浜北区	99,648	38,974	99,712	0.06	49,794	49,918	99.8	39,641	1.71	2.52	12.6	66.50	1,499
天竜区	26,368	12,064	25,681	△ 2.61	12,524	13,157	95.2	11,926	△ 1.14	2.15	3.3	943.84	27

注) 令和5年12月に公表された「全国都道府県市区町村別面積調」により、南区の面積が変更になりました。

4 年齢別人口

年齢別に人口をみると、前年に比べ、年少人口（15歳未満）は96,052人（構成比12.2%）で2,706人、生産年齢人口（15歳～64歳）は467,651人（同59.2%）で2,052人それぞれ減少しているのに対し、老年人口（65歳以上）は226,119人（同28.6%）で965人増加している。

行政区別に構成比をみると、年少人口が最も高いのは浜北区（14.3%）で、最も低いのは天竜区（7.3%）である。生産年齢人口が最も高いのは中区（61.0%）で、最も低いのは天竜区（45.7%）である。老年人口が最も高いのは天竜区（47.0%）で、最も低いのは東区（26.4%）である。

表4 年齢3区分別人口

区 分	令和4年	令和5年							
	浜松市	浜松市	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
年少人口 (15歳未満)	98,758	96,052	27,320	16,690	12,754	12,008	11,124	14,285	1,871
構成比(%)	12.4	12.2	11.6	12.9	11.9	11.9	12.1	14.3	7.3
生産年齢人口 (15歳～64歳)	469,703	467,651	143,338	78,421	63,174	60,940	51,774	58,272	11,732
構成比(%)	59.2	59.2	61.0	60.7	58.9	60.2	56.5	58.4	45.7
老年人口 (65歳以上)	225,154	226,119	64,285	34,133	31,400	28,251	28,817	27,155	12,078
構成比(%)	28.4	28.6	27.4	26.4	29.3	27.9	31.4	27.2	47.0

年齢構成指数をみると、年少人口指数は20.5（前年21.0）、従属人口指数は68.9（同69.0）で、前年に比べ減少している。老年人口指数は48.4（同47.9）、老年化指数は235.4（同228.0）で、前年に比べ上昇している。老年化指数の上昇が著しく、高齢化が進んでいることが分かる。

行政区別にみると、老年人口指数・従属人口指数において天竜区が突出して高く、生産年齢人口が少ないことを示している。老年化指数は全ての区で190を超えており、老年人口が年少人口を上回っていることが分かる。

【人口の年齢構成の特徴を表す指数】

- 年少人口指数(生産年齢人口に占める年少人口の割合)

$$\frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$
- 老年人口指数(生産年齢人口に占める老年人口の割合)

$$\frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$
- 従属人口指数(生産年齢人口に占める年少人口と老年人口の和)

$$\frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$
- 老年化指数(年少人口に占める老年人口の割合)

$$\frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

【図5 年齢3区分別人口(構成比)】

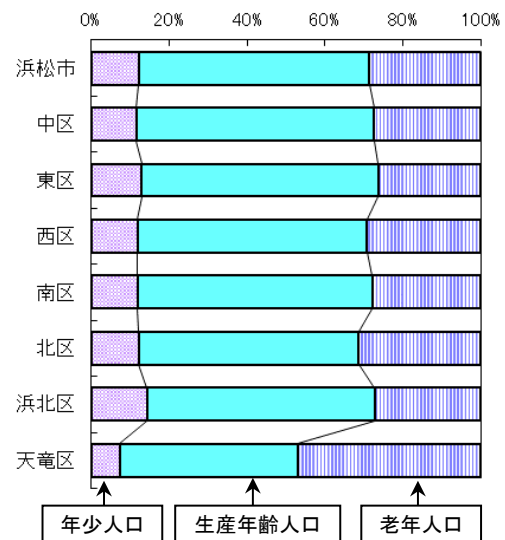


表5 年齢構成指数

区 分	令和4年	令和5年							
	浜松市	浜松市	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
年少人口指数	21.0	20.5	19.1	21.3	20.2	19.7	21.5	24.5	15.9
老年人口指数	47.9	48.4	44.8	43.5	49.7	46.4	55.7	46.6	102.9
従属人口指数	69.0	68.9	63.9	64.8	69.9	66.1	77.1	71.1	118.9
老年化指数	228.0	235.4	235.3	204.5	246.2	235.3	259.1	190.1	645.5

日本人住民の平均年齢は47.79歳で、前年の47.48歳より0.31歳上昇している。男女別にみると、男性は46.28歳(前年45.96歳)、女性は49.29歳(同49.00歳)で、ともに前年に比べ上昇している。

外国人住民の平均年齢は34.89歳で、前年の34.99歳より0.10歳低下している。男女別にみると、男性は33.56歳(前年33.71歳)、女性は36.22歳(同36.26歳)で、ともに前年に比べ低下している。

行政区別にみると、日本人住民の平均年齢は、前年と同様すべての区において上昇しており、最も上昇幅が大きかったのは北区の0.42歳で、最も上昇幅が小さかったのは天竜区の0.11歳であった。外国人住民の平均年齢は、前年に比べ、中区、東区、西区については上昇しているが、その他の区では低下している。

表6 平均年齢

【日本人住民】

区 別	令 和 4 年			令 和 5 年		
	男	女	合計	男	女	合計
浜 松 市	45.96	49.00	47.48	46.28	49.29	47.79
中 区	45.76	48.97	47.37	46.05	49.23	47.65
東 区	44.86	47.48	46.17	45.17	47.81	46.48
西 区	46.45	49.36	47.91	46.86	49.71	48.30
南 区	45.91	49.01	47.44	46.21	49.33	47.75
北 区	47.02	50.19	48.61	47.45	50.58	49.03
浜 北 区	44.69	47.29	45.99	44.96	47.57	46.27
天 竜 区	55.51	59.61	57.61	55.68	59.67	57.72

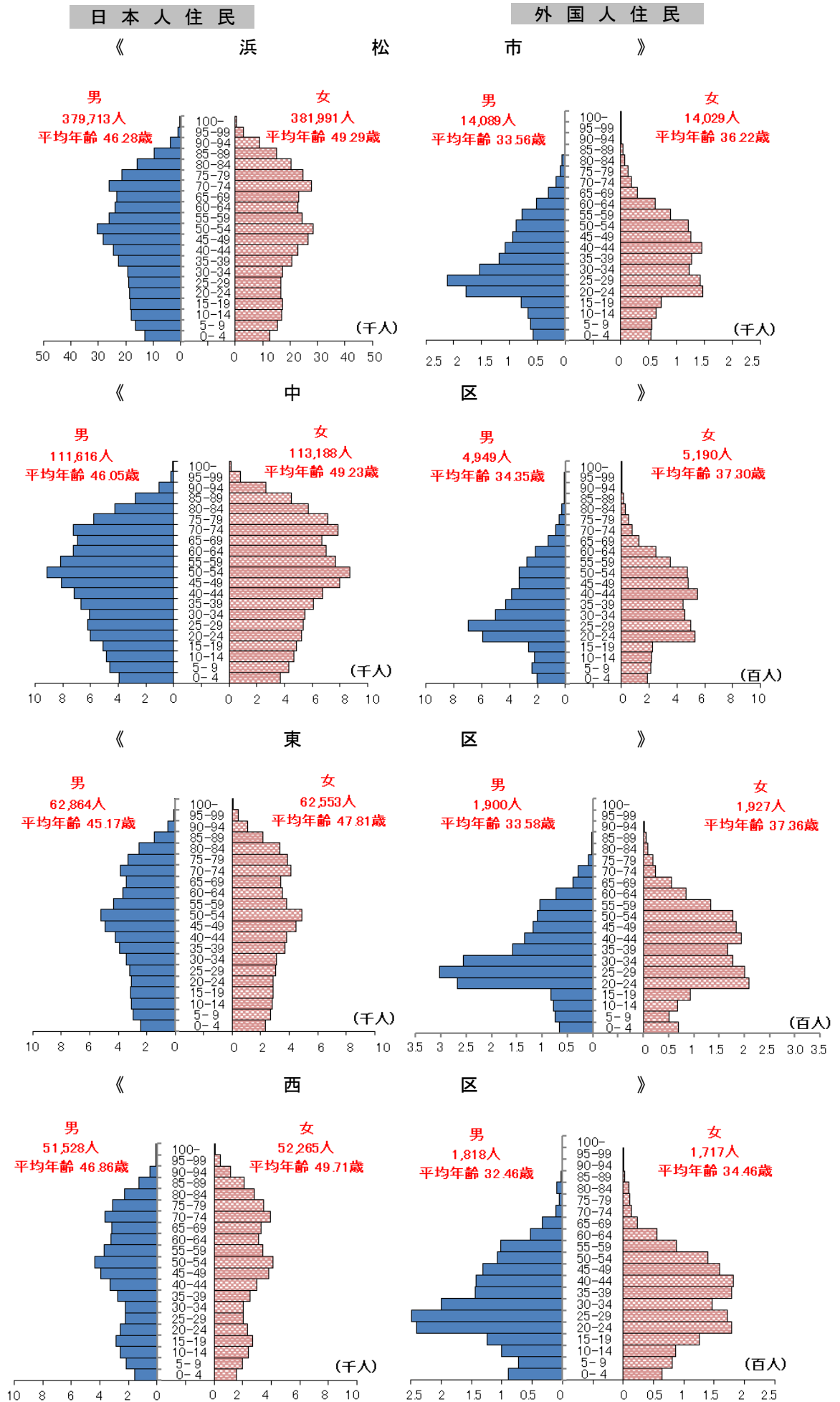
【外国人住民】

区 別	令 和 4 年			令 和 5 年		
	男	女	合計	男	女	合計
浜 松 市	33.71	36.26	34.99	33.56	36.22	34.89
中 区	34.28	37.25	35.82	34.35	37.30	35.86
東 区	33.59	37.24	35.45	33.58	37.36	35.48
西 区	32.48	34.28	33.35	32.46	34.46	33.43
南 区	33.85	35.89	34.86	33.58	35.79	34.66
北 区	32.85	35.14	33.98	32.39	34.93	33.61
浜 北 区	33.28	34.50	33.88	32.67	34.21	33.43
天 竜 区	37.77	38.86	38.33	37.24	38.33	37.83

人口ピラミッド(5歳階級)は、日本人住民において、50歳代前半(昭和44～48年生)と、70歳代前半(昭和24～28年生)の人口が多いことを表している。外国人住民は、20歳代後半の人口が最も多い。

行政区別にみても概ねその傾向があるが、特徴的な区もある。南区と北区の日本人住民人口は、他区に比べ年齢階級による凹凸が少ない。天竜区の日本人住民においては、第二次ベビーブーム世代の凸が見られない。

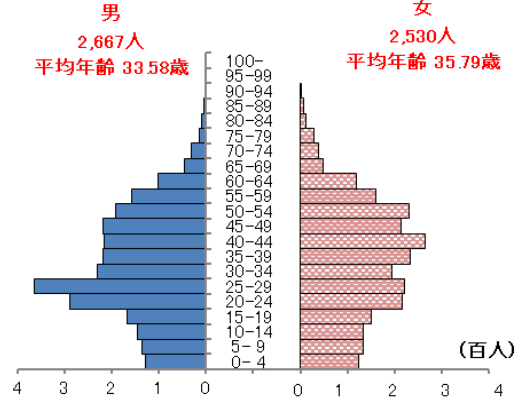
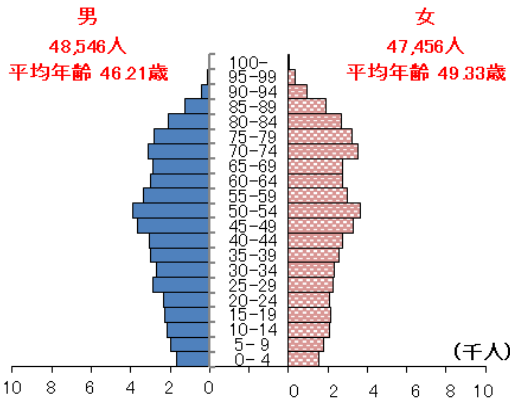
【図6 人口ピラミッド(5歳階級)】



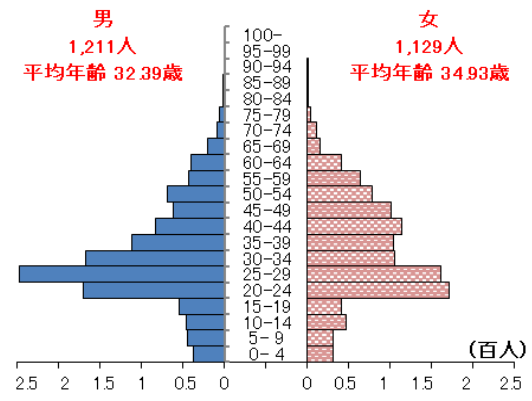
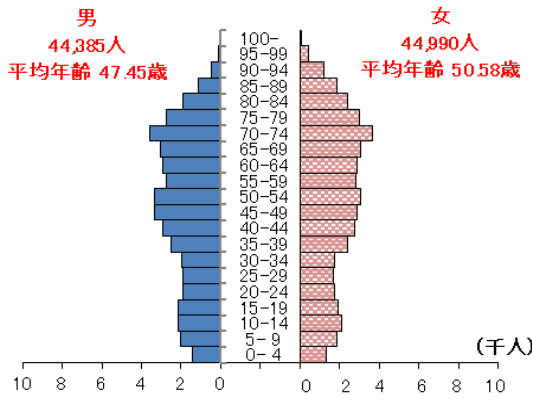
日本人住民

外国人住民

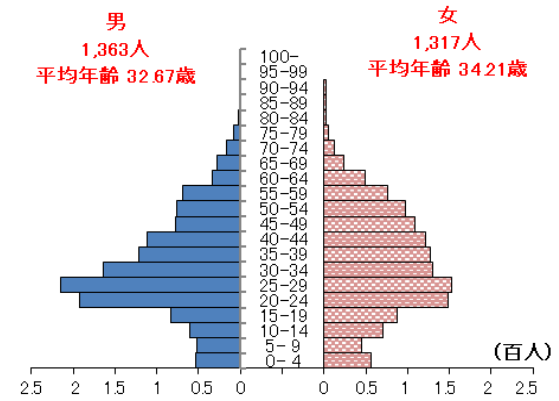
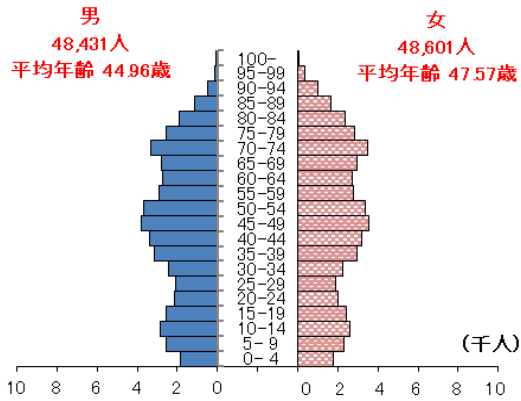
《 南区 》



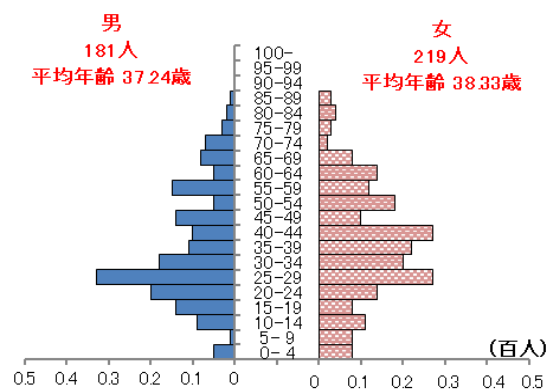
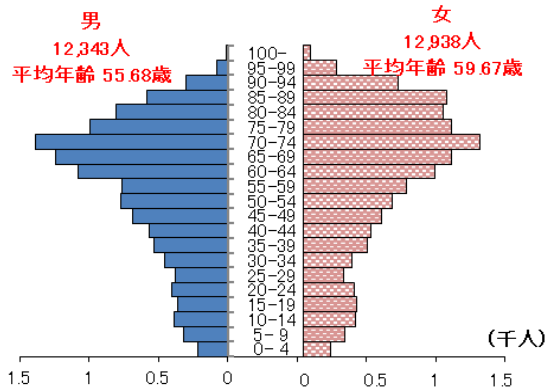
《 北区 》



《 浜北区 》



《 天竜区 》



5 人口動態(令和5年1月～令和5年12月)

(1) 自然動態

令和5年1月から令和5年12月までの自然動態をみると、出生数は4,755人、出生率(人口1,000人当たりの出生数)は6.02‰(パーミル)である。これに対し、死亡数は9,644人、死亡率(人口1,000人当たりの死亡数)は12.21‰で、両者の差である自然増減数は4,889人減、自然増減率(人口1,000人当たりの自然増減数)は6.19‰減である。

前年と比較すると、出生数は388人減少し、死亡数は247人増加している。自然増減数は635人減で、15年連続の減少である。

行政区別にみると、出生数は中区、東区、南区の順に多く、死亡数は中区、東区、西区の順に多い。自然増減数はすべての区で減少しており、中区、北区、西区の順で大きく減少している。

出生率が最も高いのは東区、最も低いのは天竜区である。死亡率が最も高いのは天竜区、最も低いのは東区であり、自然増減率が最も高いのは東区、最も低いのは天竜区である。

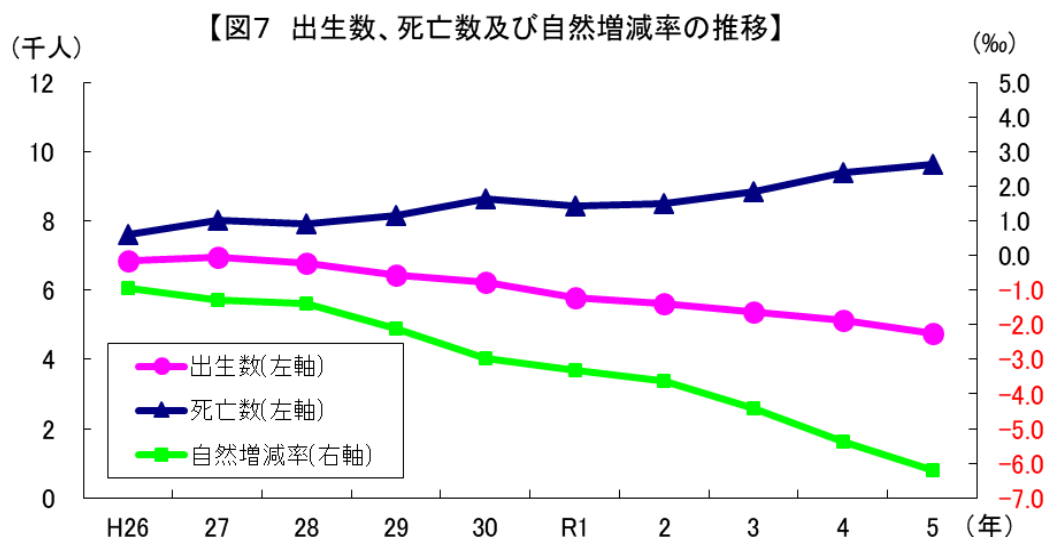


表7 自然動態

区 別	出 生			死 亡			自 然 増 減		
	総 数	出生率(‰)	前年比(%)	総 数	死亡率(‰)	前年比(%)	総 数	自然増減率(‰)	前年比(%)
浜松市	4,755	6.02	△ 7.54	9,644	12.21	2.63	△ 4,889	△ 6.19	△ 14.93
中 区	1,494	6.36	△ 4.90	2,797	11.91	6.88	△ 1,303	△ 5.55	△ 24.57
東 区	902	6.98	△ 13.27	1,377	10.65	1.70	△ 475	△ 3.68	△ 51.27
西 区	556	5.18	△ 8.10	1,294	12.06	△ 2.71	△ 738	△ 6.88	△ 1.79
南 区	665	6.57	△ 4.45	1,215	12.01	1.59	△ 550	△ 5.43	△ 10.00
北 区	473	5.16	△ 6.15	1,220	13.30	0.58	△ 747	△ 8.14	△ 5.36
浜北区	601	6.03	△ 9.08	1,107	11.10	1.65	△ 506	△ 5.07	△ 18.22
天竜区	64	2.49	△ 3.03	634	24.69	6.02	△ 570	△ 22.20	△ 7.14
令和4年	5,143	6.48	△ 3.96	9,397	11.84	6.07	△ 4,254	△ 5.36	△ 21.40

(2) 社会動態

令和5年1月から令和5年12月までの社会動態をみると、転入者数は23,887人、転入率(人口1,000人当たりの転入者数)は30.24%(パーミル)である。これに対し、転出者数は22,719人、転出率(人口1,000人当たりの転出者数)は28.76%で、両者の差である社会増減数は1,168人増加となり、社会増減率(人口1,000人当たりの社会増減数)は1.48%増である。

前年と比較すると、転入者数は28人、転出者数は43人とともに増加になった。社会増減数は15人減少となっている。

行政区別にみると、転入者数・転出者数ともに中区、東区の順に多い。社会増減数は中区、南区、浜北区の順に増加している。転入率・転出率ともに最も高いのは中区であり、社会増減率は南区、浜北区、中区の順に高い値となっている。

自然動態と社会動態を比較すると、本年は転入者数が多く、社会増減数は1,168人増加したが、自然増減数は4,889人減少となり、引き続き人口は減少している。

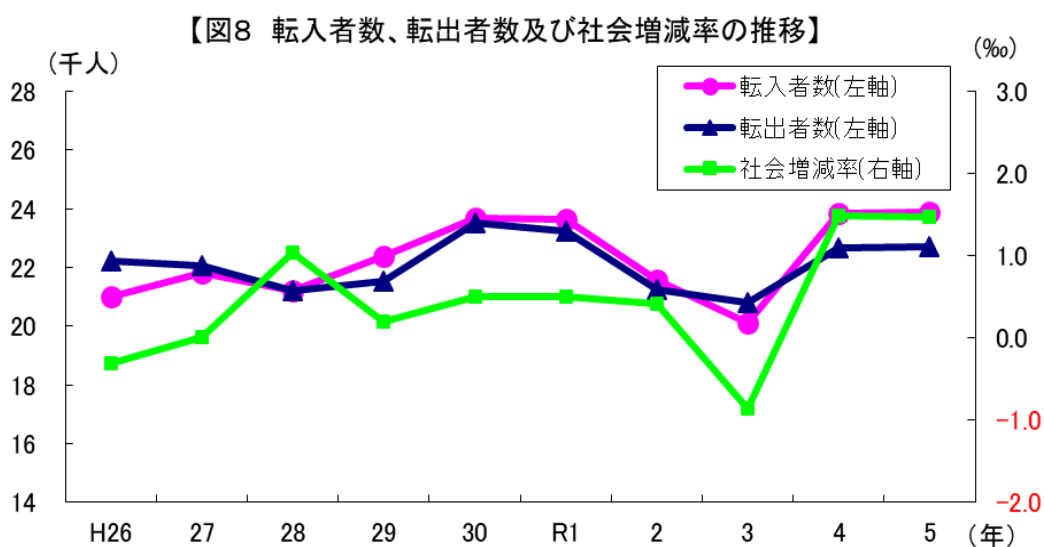


表8 社会動態(市外移動)

区 別	転 入			転 出			社 会 増 減		
	総 数	転入率(‰)	前年比(%)	総 数	転出率(‰)	前年比(%)	総 数	社会増減率(‰)	△は減少率 前年比(%)
浜松市	23,887	30.24	0.12	22,719	28.76	0.19	1,168	1.48	△ 1.27
中 区	9,449	40.22	1.36	8,833	37.60	3.71	616	2.62	△ 23.48
東 区	3,611	27.94	2.88	3,541	27.40	△ 1.01	70	0.54	204.48
西 区	3,067	28.58	△ 4.84	3,041	28.33	△ 0.69	26	0.24	△ 83.85
南 区	3,263	32.24	△ 0.97	2,947	29.12	△ 5.09	316	3.12	66.32
北 区	1,941	21.16	△ 3.72	2,005	21.86	3.94	△ 64	△ 0.70	△ 173.56
浜北区	2,198	22.04	3.53	1,929	19.35	△ 7.88	269	2.70	827.59
天竜区	358	13.94	△ 3.24	423	16.47	7.91	△ 65	△ 2.53	△ 195.45
令和4年	23,859	30.06	18.57	22,676	28.57	8.95	1,183	1.49	271.20

6 人口移動状況(住民基本台帳・令和5年1月～令和5年12月)

令和5年1月から令和5年12月までの人口移動状況をみると、東海地方での出入りが最も多く、転入者は10,461人(構成比54.5%)、転出者は9,564人(同48.6%)である。以下、関東地方、近畿地方と続いている。

東海地方を県別にみると、転入者・転出者ともに最も多いのは静岡県で、東海地方における移動者の約6割を占めている。関東地方においては、転入者・転出者ともに東京都、神奈川県の方に多い。

大都市(東京都特別区部及び政令指定都市)別にみると、転入者は東京都特別区、静岡市、名古屋市の順に多く、転出者は東京都特別区、名古屋市、静岡市の順に多い。

全国でみると506人の転入超過であるが、北陸甲信越、東海、中国、九州・沖縄に対しては転入超過である。東海地方においては897人の転入超過であるが、愛知県に対しては12人の転出超過である。

表9 地方別転入・転出者数

地方	転入				転出				転入超過数 (△は転出超過数)		
	総数	構成比(%)	男	女	総数	構成比(%)	男	女	総数	男	女
総数	19,189	100.0	11,149	8,040	19,695	100.0	11,445	8,250	△ 506	△ 296	△ 210
北海道	213	1.1	120	93	248	1.3	171	77	△ 35	△ 51	16
東北	421	2.2	259	162	451	2.3	283	168	△ 30	△ 24	△ 6
関東	4,340	22.6	2,571	1,769	5,751	29.2	3,266	2,485	△ 1,411	△ 695	△ 716
北陸甲信越	757	3.9	438	319	711	3.6	453	258	46	△ 15	61
東海	10,461	54.5	5,992	4,469	9,564	48.6	5,522	4,042	897	470	427
近畿	1,249	6.5	763	486	1,574	8.0	892	682	△ 325	△ 129	△ 196
中国	721	3.8	412	309	383	1.9	238	145	338	174	164
四国	154	0.8	81	73	172	0.9	105	67	△ 18	△ 24	6
九州・沖縄	873	4.5	513	360	841	4.3	515	326	32	△ 2	34

注1) 住民基本台帳人口移動報告年報(基本集計)(総務省統計局)による。

注2) 東北地方: 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東地方: 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北陸甲信越地方: 新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県

近畿地方: 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方: 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方: 徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州・沖縄地方: 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

注3) 都道府県別・大都市別の転入・転出者数は、統計表6に掲載。

表10 東海地方県別転入・転出者数

県	転入				転出				転入超過数 (△は転出超過数)		
	総数	構成比(%)	男	女	総数	構成比(%)	男	女	総数	男	女
総数	10,461	100.0	5,992	4,469	9,564	100.0	5,522	4,042	897	470	427
静岡県	6,083	58.1	3,435	2,648	5,398	56.4	3,110	2,288	685	325	360
岐阜県	421	4.0	255	166	317	3.3	182	135	104	73	31
愛知県	3,524	33.7	2,034	1,490	3,536	37.0	2,029	1,507	△ 12	5	△ 17
三重県	433	4.1	268	165	313	3.3	201	112	120	67	53